

**2014 年度**

# あおがき道の駅の夕べ 2014

準備期間：2014.6.3~  
開催日：2014.7.20



## ■ 1. 危ぶまれていた開催 - 事業費の打ち切り -

兵庫県丹波市青垣町にある「道の駅あおがき」で「あおがき道の駅の夕べ」という祭が行われてきた。昨年度までは3つの組織が実行委員会を運営してきたが、昨年度を最後に事業費が打ち切られ、実行委員会も事実上の解散。今年度の開催が危ぶまれていた。



## ■ 2. 新たな組織の結成 - 参加型の祭へ -

そんな中、子どもの参加が多く、将来、地域に愛着を感じる大人に育ててほしいとの思いから「あおがき灯りの夕べ実行委員会」を結成し、今年度も開催することになった。建築学科の学生で空間の提案。参加型の祭を目指し、会場での灯ろうづくりWS等様々な体験コーナーを設けた。



## ■ 3. みんなで集められる範囲の事業費で

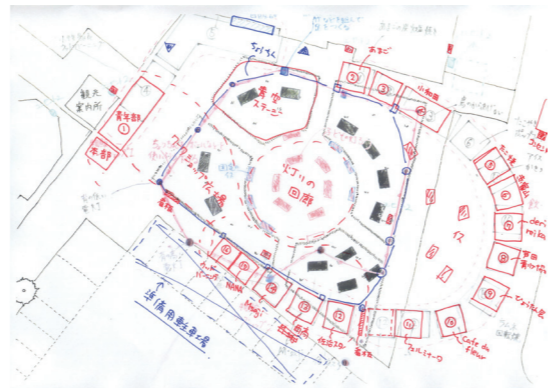
「みんなで集められる範囲の事業費で、イベントを続けるモデルに」を目標に計画を進めた。「事業費がないからできない」ではなく「背伸びせず手の届く範囲で」という視点が地域が元気になっていくうえで重要である。



## ■ 4. 参加型の空間・仕組みへ再編

多くの方の協働によって開催が危ぶまれていた祭を行うことができた。今回学生が関わることで「参加型の仕組み」へ自然と移行できたのではないかと感じている。誰かに与えられた空間を楽しむ(従来型)のではなく「参加者と一緒に空間を作る、風景を作る」(参加型)という視点が地域が元気になっていくうえで重要ではないか。

## ● 囲み囲まれ安心感のある空間を



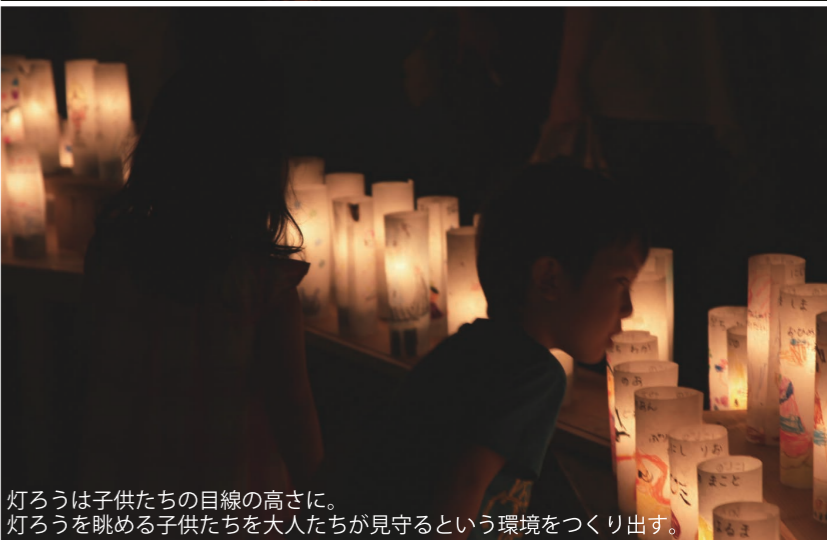
祭全体の配置計画は佐治スタジオと関西大学の学生で行った。地元の子供たちがつくった手作りの灯ろうを参加者みんなが囲むような円形の配置とした。多くの人が参加できる仕組みと空間をセットで提案できたのではないかと思います。



灯りを囲み、その背景には、屋台と道の駅あおがき、そのまわりに丹波の悠々とした山々が見えるという何重にも囲まれた安心感のある空間をつくり出している。丹波という場所の魅力空間化、可視化することで、愛着をもってもらえたのではないかと。



地元中学生による太鼓の演奏



会場の中心に地元の子供たちがつくった灯ろうを円形に配置。祭の参加者みんなが灯りを囲む構成にした。

灯ろうは子供たちの目線の高さに。灯ろうを眺める子供たちを大人たちが見守るという環境をつくり出す。

# ATACOM5

## ■ 感謝の年 2014 “GACHICOM”

2014年は本気＝「ガチ」と「ATACOM」を合わせた造語「GACHICOM(ガチコム)」が活動のテーマとなりました。造り物のテーマも「造り物への挑戦」とし、これまで受賞できていない地域の賞を本気で取りにいくという目標を立てて取り組みました。



# 大王鳥賊

- うちわ一式 ダイオウイカ -



## ■ 大王鳥賊について

材料はうちわと釣り糸のみである。取っ手の部分を編み込んで長く繋げていきイカの足としている。胴体部分は足と同様に、長く繋げたうちわの集合体を輪っか状に固定し、その輪っかを連結している。一回生が多かったこともあり、できるだけみんなに空間づくりを体験してほしいという思いから足の配置はすべて現場でみんなで議論しながら考えていった。メンバーみんなが「自分がつくった」と自慢できるようなツクリカタができたと思うし、提案者だけでは思いつかないような構成となり、豊かな空間が作り出せたのではないかと。うちわを集める過程でもたくさんの人巻き込んだこの造り物は、メンバーだけでなく多くの人の手でできている。



最終的に 2077 枚ものうちわを使い大王鳥賊をつくり、子供たちが選ぶ特別賞をいただきました。多くの方から「今年は造り物に近づいた感じがしていいね」と声をかけていただき、活動を続ける中で学生も地域に近づくことができているのだと実感しました。

## ■ あつめかた

今回の関大生の造り物となったうちわ一式でつくる「大王鳥賊 - ダイオウイカ -」の提案では、うちわはメンバーの家族や友達、地域の方や愛宕祭を知らない方も含め、できるだけ多くの方からいただいて集めるとし、実際にたくさんの方から提供していただきました。



たくさんのうちわを地域の方からいただきました。

## ■ WS&ウォークラリー



WSでも大勢の人が参加。ウォークラリー用の手作りのスタンプ。WSでは手作りうちわと落ちえだ灯籠をつくりました。ウォークラリーも好評で祭の魅力を発信できました。

## ■ 感謝うちわ



お祭りの後はご協力いただいた方々に「感謝うちわ」を渡しにきました。

## ■ 今年度の学生提案



多くの人と関係を持つ仕組みを含んだ造り物であった今回は感謝の年であると同時に、今後の ATACOM の活動に大きな変化を与える年となるのではないのでしょうか。



その全長はなんと約2m!

# 八木ラボ 2014

## 「真夏の雪だるま」



紙で作った照明も雪の結晶の雰囲気を作り出す

### ○参加をデザインする

2010年以來、5年間活動を続けてきた八木ラボ。今年の活動の目的は「参加をデザインする。」5年間の活動の中で見てきたのは住民が祭りを楽しむだけでは愛宕祭はただの地域のイベントでしか無いという現実だった。その話が出かかったのは今年度の立山最終審査会。地元の方を大学へ招いて行う予定だったが予定の都合で結果的に八木ラボ関係者で決めてしまった。

### ○コンペ最終発表会を地元の会館で

そこで今回、約1ヶ月間かけて学生たちが4グループに分かれて行われたコンペの最終発表会を、大和八木で長い歴史をもつ札の辻記念会館の2階で行われた。「この案はどれくらいの材料が必要なの?」「これはどのくらいの大きさなのか?」「大和八木と奈良は違う。」など、学生たちの案に対して議論がなされ、最終投票を行い新聞紙を用いた案に決定された。



### ○地元の方から集まった材料

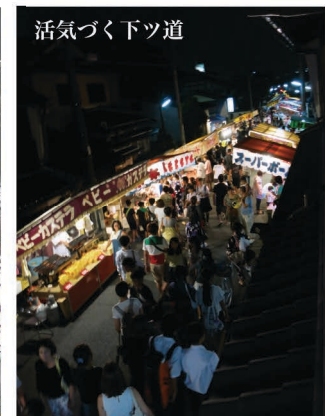
雪だるまの材料となる新聞紙集めに多くの地元の方が協力してくださった。下の地図の赤色が新聞紙の提供に参加していただいた家であり、どのような立山が出来上がるのかといつも気にかけてくださった。



涼しげな地元の竹で作った風鈴



いつも雨で始まる火除けの愛宕祭り



真夏の雪だるま

### ○皆で雪だるまをつくろう!

立山づくりはいつも町の人々の目に触れる場所でオープンに行った。学校帰りの子供達がふらりと現れて喜んで一緒に立山をつくってくれたり、通りすがりの町の人が立山について興味を持ってくれるなどして、私達のやる気も一層高まった。

### ○八木を想う

今年は、どのような方がどういう思いで立山をつくっているのかを町の人達に知ってもらおうと思い、立山をつくっている地元の方にインタビューを行った。それがきっかけで立山をつくっている地元の方と肩肘をはずらぬに八木のこれらについて語り合うこともでき、町との関わりが深めることができた。



# 花に寄り添う1000のかざぐるま 2014/ 秋

本提案では、どのようにして去年度との違いを生むかということが大きなテーマとしてありました。そしてそのテーマを『[人]と[花+かざぐるま]の距離を近づける』、『人が花を感じながら佇める場所をつくる』の2点に絞り、提案を行いました。私たちは「人と花」、「人とかざぐるま」の距離が近いことが、より多くの感動や楽しさを見る人に与え、時空の広場に身近なスケール感漂う空間をつくり、まちらしさを創り出すことができるのではのではないかと考えました。



## ■ 3大学協働プロジェクト

今年は武庫川女子大学に加え、鳥取環境大学の学生の方とも一緒に提案を行いました。各大学、作業等を分担して行い、前日の深夜施工には、全員集まって施工作業を行いました。他大学の学生と協働して提案を行うことは、思考やアイデア等の視野が広がり、提案や作業に幅が生まれます。学生同士の協働における可能性を感じることが出来ました。



## ■ 成果

昨年と大きく変わったことは花壇の配置に合わせて、かざぐるまの下をくぐるようにしたり、5連だったかざぐるまを7連等にしたことです。それによって、子供がかざぐるまに触れるようになったり、花壇とかざぐるまの近くにベンチを設け、そこに留まって景色を眺めることが出来るようになったりしました。その結果、去年度にはなかった身近なスケール感漂うまちらしい風景を時空の広場に創出出来たのではないかと考えています。



# 2015/ 冬 あみの森広場

2/2から2/14までの二週間、漁網を使って時空の広場に屋根をかけ、小さなスケールの空間を作りました。空間提案、インスタレーションとも呼べるかもしれません。本提案では、こういった仮設のものを使って季節ごとに様々な風景、空間が出現する広場とすることを、最大の目標としています。いつか、時空の広場の仮設テントのような存在になれば最高です。



## ■ 一般企業との協働

あみの森広場では、木下製網という網を扱う企業の方と、LEM 空間工房という照明デザイン事務所の方と協働して提案を実現することが出来ました。協働することで、学生だけでは技術的に解決するのが難しい部分をサポートして頂きました。また、広場にあるカフェともコラボさせて頂き、期間限定の新メニュー開発も行いました。企業との協働を通して、提案を実際に実現させるということに関して、より具体的に考えることが出来るようになりました。



## ■ 成果

イベントではなく日常的な仕掛けの一例として、今回あみの森広場を提案出来たのでは、と考えています。そして、広場らしい使い方を誘発する装置としても、十分成功したと思っています。ライトアップ時には、カップルが網の下のベンチに腰掛けていたり、カフェを利用する人が網を眺めながらお茶をしたり、談笑したり…。広場の中に網がかかっていることで、いつもの場所で、いつもと違う景色を見ながら大切な人との素敵なひとときを演出できたのではないのでしょうか。

## What's Next ??

今年で3年目を迎えた Project OSC ですが、1年目の調査を経て、「OSCのまちらしさの創出」という目的のもと、2年目以降は時空の広場という象徴的な場所で様々な空間提案を行ってきました。そして、2015年度以降はさらに、住民という名のOSCを[利用する人]や[そこで働いている人]との協働という、新しい協働のカたちを目指します。学生だけでなく、多くの人をまちづくりに巻き込むことによって、まちは多様に彩られていきます。私たち学生はその調整役として、時には空間をつなぎ、時には人をつなぎ、時には時間をつなぎ、etc 協働するために必要な「つなぎ役」を今後も担っていければと考えています。



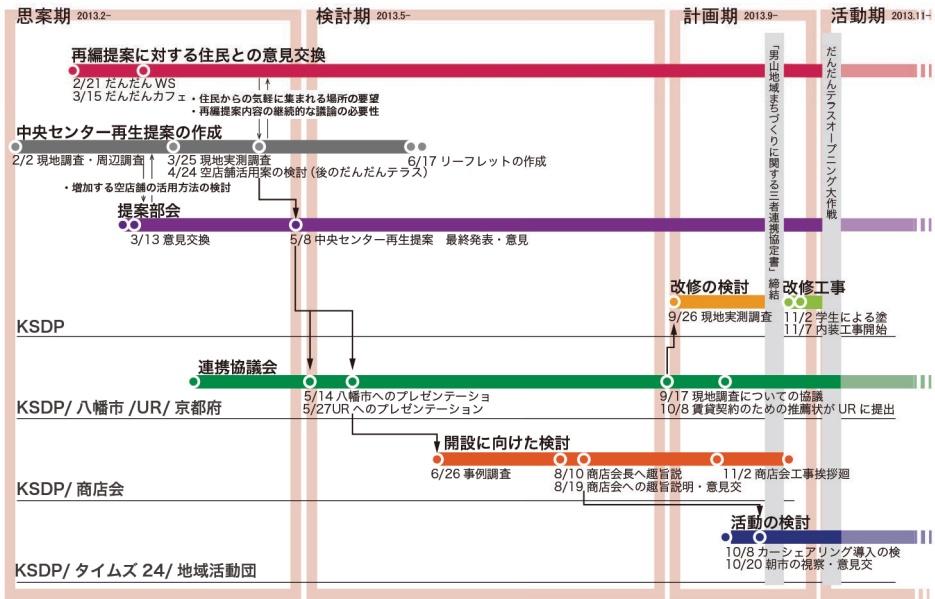
# だんだんテラス



この生のこえ  
だんだんテラスに寄せられた生の声を発信していきます！

だんだんテラスは、関西大学戦略的研究基盤団地再編プロジェクト（以下、KSDP）の研究の一環として開設されました。「365日オープン、自由に気軽に集まれる場所」を目指し、2013年11月16日にUR 男山団地の男山中央センター商店街の空き店舗にオープンいたしました。だんだんテラスの「だんだん」は「団地について談話」ことを意味し、団地生活の日常に溶け込みながら、住民、行政、事業者、専門的な研究機関、学生が一緒になって団地のミライを考えています。

## ○だんだんテラス開設までの経緯



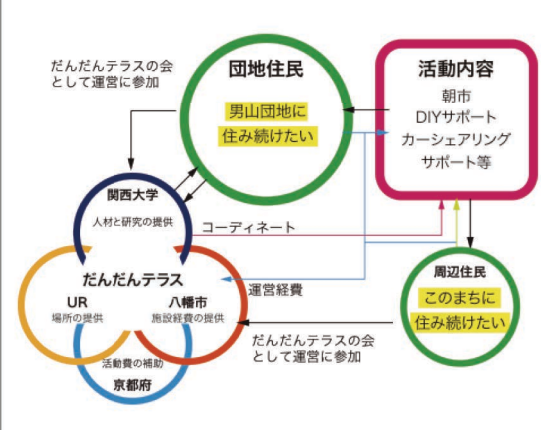
思想期以前に、KSDP 提案部会メンバーと大学院生で、「既存ストックを活かした男山団地再編技術提案」をA、B、C地区を具体地として行いました。思想期では、その提案を地域の方に発表し、意見交換を重ねていく中で、**気軽に集まれる場所の要望や提案内容の継続的な議論の必要性**がみえてきたため、検討期では、その意見をもとに中央センター地区で八幡市、UR、関西大学が、一緒になって団地を考える場である、だんだんテラスの初期案となる場所を提案しました。だんだんテラスの開設に向けて、八幡市、UR、京都府、地元商店会、タイムズ24、地域活動団体と一緒に検討を行いながら、2013年11月16日にオープンしました。

## OUR 男山団地



京都府八幡市に位置するUR 男山団地は、1972年から入居が始まり、賃貸・分譲を合わせた約6000戸の大規模集合住宅です。最大の特徴は中央を通る緑道です。

## ○運営形態



1年目は、様々な支援を受けながら、大学院生が中心となって運営を行いました。今後は、継続的な運営に関わっているみんなで考える時期に差し掛かっています。

## ○活動期

だんだんテラスは初め、地域農家の方と一緒に「だんだん朝市」しかありませんでしたが、日々の日常会話や、常駐時に感じることなどをきっかけに活動が増え、現在（2014年11月15日）48の活動が行われています。活動は大きく3つに分けられ、住民、市、府、UR、KSDP、学生といった様々な主体が自由にだんだんテラスの空間を使い、行っています。日々20人程度の方がだんだんテラスを訪れ、活動がない時でも、住民は休憩や宿題、お喋りをしに来ます。



@**団地周辺住民** もともと自治会に興味はなかったし、来てはしなかったの。でも、ここに来て、色んな人と出会って、**自治会に協力することがこんなに大事な**ことなんだってわかったわ。  
# 50代女性 / 自治会を知れた

@**常駐する学生** 住んでいる人は、良かれ悪しかれ、皆団地のことを想っているんだなと実感しています。まちに対して皆何か思っているけど、**気軽に言える場所**がなくて。でも、そんな場所があれば、まちは**変わっていく**と思うんです。  
# 20代男性 / みんなまちを想っている

@**八幡市職員** 公園や道路でもそうだけど、URが管理する**集合住宅団地の部分**については**行政は入る機会がなかった**んだよ。だから、団地について協議することもなかった。でも、関西大学とURと一緒にやらせてもらっているおかげで、団地についていろいろ知ることができたんだ。  
# 50代男性 / 団地を知れる

@**京都府職員** だんだんテラスが庁の中で共通の場所で、同じ課題を話し合う場所になっているんだ。ばらばらだった縦割りの行政が、ひとつのテーブルの中で様々な部局が座れるようになり、**縦割りを排除したプラットフォーム**になっている。  
# 50代男性 / 行政内でつながる

@**KSDP 研究員** 男山地域がどんな場所か伝わりやすくなったよ。**住民の方の具体的な意見や想いを直接聞ける**場所だね。その人のバックグラウンドも知った上でお話を伺うことができるかな。  
# 50代男性 / 日常的情報が知れる

@**高層棟在住** ラジオ体操してから、**規則正しい生活ができるようになった**。朝起きてから、洗濯して、できる時には掃除もするし。服装もちゃんと考えるようになったし。ほんで、ここへ来て挨拶するやん。みんなが挨拶してくれる。それが元気になるやな。「今日1日元気になったな。」って。頑張らなあかんって。  
# 60代女性 / 外に出るっていいね

@**UR 職員** 他の団地の大学の取り組みと違うのは、**大学が長期休業の時でも開いている**ことと、周辺の**地域の人を巻き込んでいる**こと。走りながらやっているというのが、よかったんじゃないかな。  
# 40代男性 / 地域に寄り添っている

@**B地区住民** 去年この中を覗いて、「何するの、ここ？」って聞いたら、「何するの今から考えるんです。」って言ったのよ。私も可笑しなこと聞いたかもしれないけど、返事も可笑しかったのよ。**地域を考えるとかを、芽吹かされたんよ**。「起きろ、起きろ。」って。嬉しい巻き込まれ。皆これに巻き込まれてほしいし、渦になってほしいし、それがどういう風に大きくなってくのか楽しみなのよ。  
# 60代女性 / 自分の何かが変わったの

# ダンチ de コソダテ in 男山団地

## 子育ての住まいリノベーション のびやかに暮らせる団地

男山団地が持つ特長を活かし、大きく開いた空間、ここで気持ちよく暮らすための空間づくりを目指しました。住宅プランは、のびのびとした安心感があり、家族の成長が感じられる空間としました。

## のびのびしたプランニング

団地の住戸の魅力である開放感や通気性を最大限に活かしながら、次の3つのコンセプトで計画しました。

- ①大きな窓を必要に応じてつけるプラン
- ②収納よく立てるキッチン
- ③透明な気持ちのいいリビングルーム

## 長守り、気配を感じられるプランニング

住まいの中で親子どうしが少し離れた場所にいる、子どもを見守ることができ、子どもは安心感を、私たちは、そんな距離感をデザインしました。

子育て支援プロジェクトが考える  
子育てに大切な考え方は、

- 「ママがママのペースで暮らせること」
- 「ママが安心して暮らせること」
- 「ママが安心して暮らせること」
- 「ママが安心して暮らせること」
- 「ママが安心して暮らせること」
- 「ママが安心して暮らせること」
- 「ママが安心して暮らせること」
- 「ママが安心して暮らせること」

## ダンチ de コソダテ in 男山団地

子どもののびのびと安全に遊べる広場や公園  
子どもを育てる地域コミュニティ  
子育てにやさしい住まいと施設

子育て中のママがストレスなく、地域の人も安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

このプロジェクトで、

- ①子育て世代向け「子育ての住まいリノベーション」
- ②地域子育て支援施設「おひさまテラス」の建設

## おひさまテラス

子どもの遊び場、おひさまテラス。そんな遊び場を、おひさまテラスが実現しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

おひさまテラスの運営は、おひさまテラスが担当しています。おひさまテラスは、子育て世代のママたちが安心して暮らせる、暮らしやすい団地。それが「ダンチdeコソダテ」のコンセプトです。

## プレイルームのある住まい

ダイニングキッチンから子どもへの目配りのできるプレイルームを併せ持つプラン。



## 大きなワンルーム使いのできる住まい

親子を分けずに、安全な大きなワンルーム空間として使うことのできるプラン。



## 大きなキッチンが家の中心にある住まい

住まいの中心には、気配を呼びたくる大きなキッチンがあるプラン。



## 大きなリビングのある住まい

日当たりの良い、窓を大きく取りたい大きなリビングのプラン。



## プロジェクト主旨

「ダンチ de コソダテ in 男山団地」プロジェクトとは、団地内の空き住戸を子育て支援住戸として改修するもので、男山団地で始めに入居が開始されたA地区でスタートしました。住戸改修だけでなく、団地全体を子育てにふさわしい環境に再整備するというコンセプトのもと活動しています。

## パンフレットの作成

改修住戸は全部で5戸行い、一つはモデルルームとして残り、残りの4戸は2月に公開され、公募抽選も行われました。活動の主旨、それぞれの住戸の提案内容、男山団地全体のマップ等を記したパンフレットも作成しました。

## 階段室の提案

階段室入口も改修し、ベビーバギー置き場やベンチなども設置しました。階段室ごとに色が違い、この活動が広まれば、外を歩くのももっと楽しくなると思います。団地内で自分が今どこにいるのか、その住棟がどこの住棟なのかということも分かりやすくなりました。来年度は鉄部への多色使い塗り分け塗装なども、実現する予定です。



## 子育て住戸改修

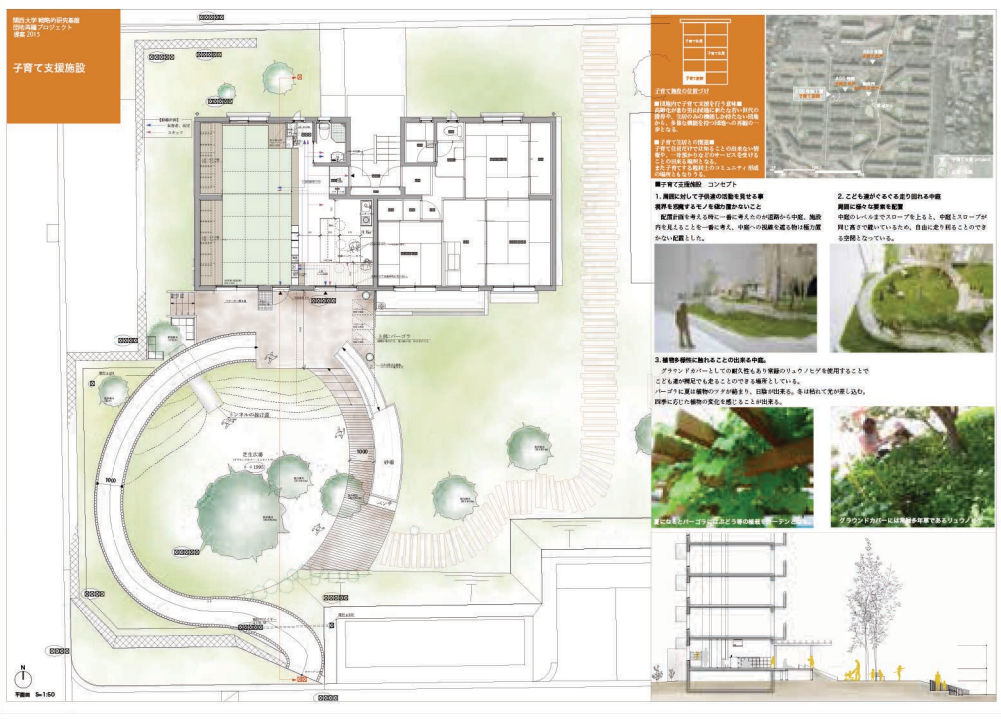
男山団地には豊かな緑もあり、素敵な眺望もあります。透明ガラスを多用し、開放的でリラックスできる住戸内環境の整備に努めました。入居者を募集したところ、8倍の申し込みが合った住戸もあります。各住戸とも、3月には新しい住民が入居します。このプロジェクトは、検証を行った後、来年度も継続展開の予定です。



改修住戸の玄関扉にも塗装しています。

## 子育て支援施設提案

子育て住戸は実施でしたが、それ以外にも、団地の住戸内を子育て支援の施設としてコンバージョンする提案も行いました。住戸前の空いた場所を、こどもたちの遊べる場所とアプローチ空間、植物にふれる場所として提案し、様々な遊べるしかけをつくり回遊性を持たせました。



# いのり星®放流 in カンポンブロック村

渇水期調査旅行：2014.6.30-2014.7.5  
 浸水期調査旅行：2014.11.2-2014.11.5  
 放流日：2014.11.4

天の川プロジェクト × 建築環境デザイン研究室



■ 天の川プロジェクト® といのり星® (天の川プロジェクト <http://amanogawa-project.com/>)



中之島「平成天の川伝説2014」の様子

—悠久の時を超え、様々な土地に恵みを与え続けてきた水の流れ。それは、流域で暮らす人と人、地域と地域を結びつける大切な役割を果たしてきました。本プロジェクトは、そんな水の流れがもたらす“えにし（縁）”をひもとき、そこに沢山の人が想いをはせる機会を創り出そうというプロジェクトです。（天の川プロジェクト HP より）

今回のコラボレーションは、天の川プロジェクト代表の原野芳弘氏と江川直樹教授の発案である。いのり星® は、着水すると視認性の高い青い光を発するボールである。「水景」を可視化することで水の流れが想起させる無限の時間に思いを馳せ、水辺の再評価を図ろうという試みである。日本では夜景とのコラボレーションが美しいが、今回は、無電化地域であるカンポンブロック村で、その生活の一部である水景を浮かび上がらせる。

## ■ 7月から準備作業

7月の調査旅行の際に、村長に「いのり星を浸水期の村で浮かべたい」と話し、一応の許可を得ることができた。帰国後は、毎年ガイドをお願いしているスローズさんを通して、関係各所への調整を進めてもらった。一方、日本では、原野芳弘氏とともに放流計画を進め、100個のいのり星を放流することになり、原野氏の指導のもと、いのり星の点検作業等準備を進めた。11月の放流の際には、現地でも放流のリハーサルや動画撮影の細かい調整を行っている。



## ■ 変化するカンポンブロック村

建築環境デザイン研究室では、2005年から集落を訪れ、実際に集落に住み込み、集落全体の住戸配置と、寺院、学校、住戸の内部を実測し、図面化。2008年には東京新宿のコンカミノルタプラザで「両棲集落 実測図 × 山田脩二の写真」展を行った。現在も毎年学生が集落を訪れ、刻々と変わり続ける集落の姿を記録し続けている。

2014年度も7月と11月に村を訪れ、その変化を確認した。村には電柱が立ち並び、(24時間電気が使える訳ではないが)夜も多少明るくなっていた。また季節移住仮設住居は、湖までの川が整備されたことにより、その必要性が無くなり、季節移住という文化そのものが無くなってしまったという。

カンポンブロック村への調査旅行も始まって10年になるうとしている。変化し続ける村の姿は、関わってきたそしてこれから関わるであろう人たちの心にどのように映るのだろうか。

※カンポンブロック村については2013年版「協働する学生のチカラ」に詳しい



空中集落の姿



今年は水量が少なく、不思議な風景



湖に季節移住仮設住居の姿はない



集落内には電線が走っている



宿泊は集落内の住居



いのり星により暮らしの一部である水景として空間が浮かび上がってくる。

## ■ 暗闇に浮かぶいのり星

流れのない暗闇の村に浮かぶいのり星はまさに夜空に輝く「星」。純粹にいのり星を眺められるのは村ならではのであった。視認性の高い青い光に村の人たちも興味津々、家からたくさんの人が出てきていたようである。家々が向き合っていて、真ん中に流れるいのり星をみんな眺めているという空間が印象的であった。いのり星も大変綺麗であったが、今回の大きな成果は、村の人たちが手伝ってくれた事である。言葉は通じないが、いのり星が流れをはずれたら戻してくれたり、明かりがつかないものがあれば、教えてくれたり。「オーケン！（ありがとう）」と言えば笑顔で返してくれる。

学生と村人の新しい交流のカタチ—今後も継続的にいのり星を放流するには様々な課題があるが、この村なら大丈夫と思える何かがあるように感じた。



ほとんど灯りのない村に浮かぶいのり星はまさに「星」であった。



# 瓜破東住宅 学生住戸自主改修実験

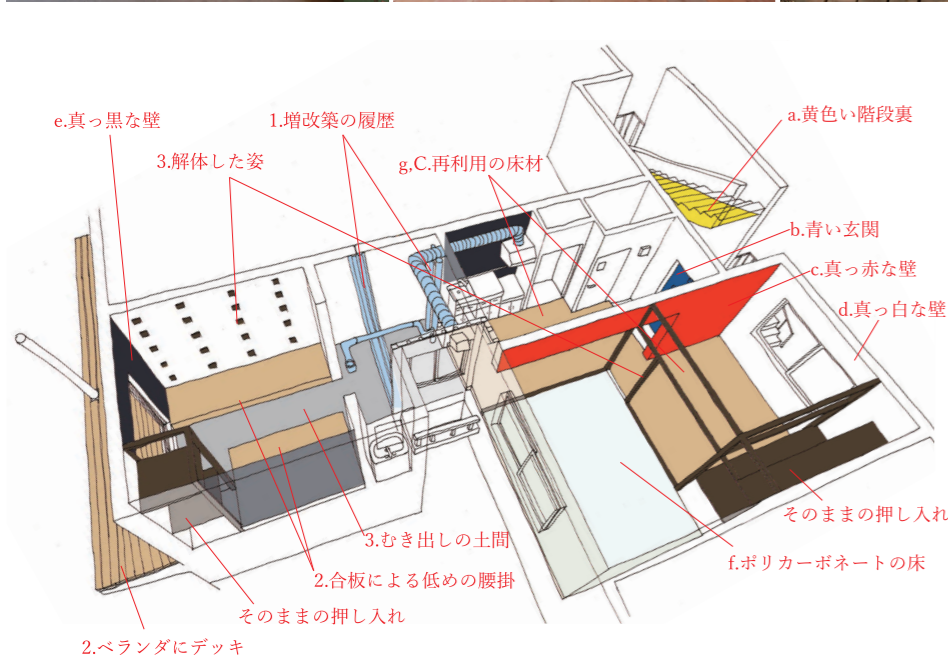
改修：2014.8.12 - 10.8  
公開：2014.10.8 - 10.14  
撤収：2014.10.15, 翌2.17

## 「団地住棟におけるコミュニティスペースの階層によるケーススタディ」

### 「団地にゲストハウスを」

住戸改修実験で行ったこの計画は、今日空き住戸が増加する中、新たに人を住まわそうとするのではなく、既に住んでいる団地住民や周辺住民の暮らしをより豊かにするための提案である。

この場所は同階段室に住む住民達によって管理され、日常生活の一部としてこの場所は利用されて行く。また、一階にある住戸を活用する事で同住棟住民だけでなく周辺に暮らす人々をこの場所に導く事ができる。友人や家族が訪れ、宿泊する際に利用される「ゲストハウス」として計画するが、住民達の使い次第で様々な場所へと変化する。例えば周辺住民が集うサロンや託児所、庭と住戸内を一体的に利用するBBQなど。



### 色と素材による改修後の多彩な空間

**a. 黄色の階段裏**  
普通塗れない共用部に塗装。実際の住民でもできるような作業で空間に変化を。

**b. 青い玄関**  
青色と黄色が訪れる人を迎え入れるような、住棟が華やく設えに。

**c. 真っ赤な壁**  
人が集うこの場所を、あたたかみのある室内に。

**d. 真っ白な壁**  
壁の赤や日光が壁に映ることでより明るく、あたたかみのある室内に。

**e. 真っ黒な壁**  
庭に茂る草木の緑を、黒い畚縁で切り取る。

**f. ポリカーボネートの床**  
実験的に床材としてポリカーボネートを使った。柔らかな素材で寝そべったりできる。反射によって部屋も明るくなる。

**g. 再利用の床材**  
過去の改修で先輩が使った材料を再利用している。

### 「残す」という選択

限られた人数と日数から、「既存を活かす」と「誰でもできる比較的簡単な操作」というキーワードが改修作業の指針となった。また「何を壊すか」「なにを新しくつくるか」だけでなく「何を残すのか」を考えることを重要としたことで「新築ではなく既存改修だからできること」を多く発見出来た事につながり、改修に「残す」デザインを取り入れることができた。

### 関大の改修コンセプト

#### A. 現場で考える

改修だからこそ、既存を見ながら 1/1 スケールの現場で話し合いながら考える。

#### B. みんなができることを

学部 2 回生～大学院 2 年まで、学年関係なく改修に参加していた。特殊なことはせず、身の丈に合ったことを行う。

#### C. ゴミを最小限に

他の活動でも大事にしている研究室のコンセプト。できるだけ捨ててしまうような材料は使わず、最後に回収できるように。

### 既存改修だからできたこと

#### 1. 増改築の履歴

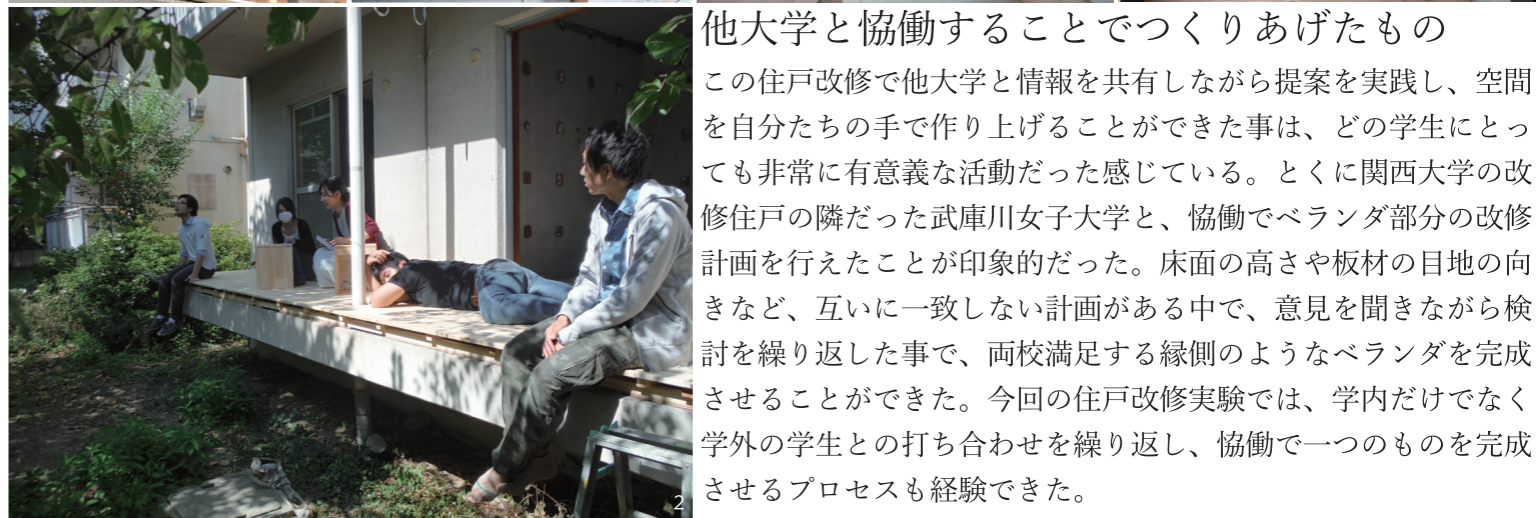
増改築の痕跡を見せる事は、この場所の特徴の一つとなる。a

#### 2. ベランダが隣住戸同士をつなぐ

武庫川女子大学と協働でデッキを制作。内部と外部が一体となった縁側のような空間に。

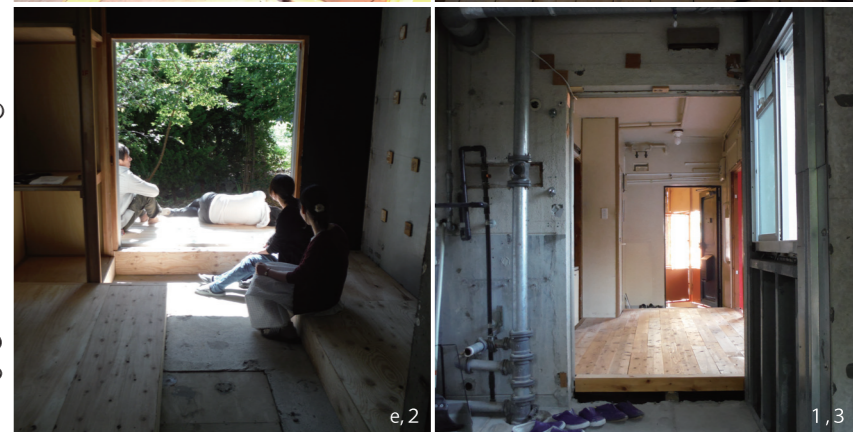
#### 3. 解体した姿

既存住戸を解体する事で現れた打ちっぱなしのコンクリートや下地材は、この場所の空間をつくる要素となる。



### 他大学と協働することによって作りあげたもの

この住戸改修で他大学と情報を共有しながら提案を実践し、空間を自分たちの手で作り上げることができた事は、どの学生にとっても非常に有意義な活動だったと感じている。とくに関西大学の改修住戸の隣だった武庫川女子大学と、協働でベランダ部分の改修計画を行えたことが印象的だった。床面の高さや板材の目地の向きなど、互いに一致しない計画がある中で、意見を聞きながら検討を繰り返した事で、両校満足する縁側のようなベランダを完成させることができた。今回の住戸改修実験では、学内だけでなく学外の学生との打ち合わせを繰り返し、協働で一つのものを完成させるプロセスも経験できた。



## 2014年度の活動における協働者・団体

<div><b>【あおがき道の駅のタベ 2014】</b></div> <div>開催日：2014年7月20日</div> <div>あおがき灯りのタベ実行委員会</div> <div>丹波市観光協会</div> <div>丹波市商工会</div> <div>丹波市商工会青垣支部青年部</div> <div>兵庫県立氷上西高等学校</div> <div>丹波市立青垣中学校</div> <div>認定こども園あおがき（丹波市青垣町）</div> <div>みのり保育園（福知山市）</div> <div>さつき保育園（福知山市）</div> <div>関西大学佐治スタジオ</div> <div>出町慎　出町綾</div> <div>建築環境デザイン研究室</div> <div>植地惇　関谷大志朗　銅田匠馬　亀井智美　山中晃</div> <div>関西大学環境都市工学部建築学科</div> <div>小寺沙季　平野彰　野村卓史　丹羽康介</div>
---

<div><b>【いのり星放流 in カンポンブロック村】</b></div> <div>放流日：2014年11月4日</div> <div>原野芳弘（株式会社ランドマークジャパン代表取締役</div> <div>天の川プロジェクト代表）</div> <div>チーム・スロース（KRORMA TOURS Co.,Ltd./クロマーツアーズ（有））</div> <div>カンポンブロック村のみなさま</div> <div>調査メンバー</div> <div>渇水期（2014年6月30日～2014年7月5日）</div> <div>植地惇　関谷大志朗　松浦知子　銅田匠馬　奥野智士　亀井智美</div> <div>八木沙音里　山中晃</div> <div>浸水期（2014年11月2日～2014年11月5日）</div> <div>植地惇　関谷大志朗　塗師木伸介　奥川翔　柴田太郎　岡本悠志</div> <div>高木翔平　山本楓　銅田匠馬　大田美奈子　早川凌平</div> <div>江川直樹　原野芳弘</div>
---

<div><b>【八木ラボ 2014】</b></div> <div>開催日：2014年8月16～25日</div> <div>（制作合宿からお祭り本番・片付けの期間）</div> <div>特定非営利法人八木まちづくりネットワーク</div> <div>愛宕祭奉賛会</div> <div>八木まちづくり協議会</div> <div>八木地域の皆様</div> <div>建築環境デザイン研究室</div> <div>門田晃明　塗師木伸介　岡本悠志　奥川翔　高木翔平　福間航</div> <div>池田奈緒　今井祥太　川西亮　中馬啓太　萬浪さゆり　八木沙音里</div> <div>関西大学環境都市工学部建築学科</div> <div>片山湧　蔦田茜　筒井航　前平春佳　村上真央　松下航大　太田雅己</div> <div>奥田泰司　右山将吉</div>
---

<div><b>【ATACOM5】</b></div> <div>開催日：2014年8月17～25日</div> <div>（制作合宿からお祭り本番・片付けの期間）</div> <div>関西大学佐治スタジオ</div> <div>出町慎　出町綾</div> <div>建築環境デザイン研究室</div> <div>植地惇　近藤拓也　関谷大志朗　銅田匠馬　亀井智美</div> <div>堀内彩夏　山中晃</div> <div>関西大学環境都市工学部建築学科</div> <div>北野優真　阪井勇樹　長江晟那　中田喜之　黒河尚明</div> <div>小寺沙季　中村穂希　平野彰　宮森祐允　横山哲也　熊野佐亮</div> <div>二川菜奈　丹羽康介　古久保有香　前田丈</div> <div>愛宕祭実行委員会</div> <div>成松造り物保存会</div> <div>中央地区自治振興会</div> <div>ふるさと丹波市定住促進会議</div> <div>土井恵介（ガレージの提供）</div> <div>地域の造り物の先人のみなさま</div> <div>関西大学建築学科教授</div> <div>LEM 空間工房代表</div> <div>江川直樹</div> <div>長町志穂</div>
---

<div><b>うちわを提供してくださったみなさま</b></div> <div>ATACOM メンバーの人脈</div> <div>大阪市城東区の近所の方々</div> <div>兵庫県加古川市のみなさま</div> <div>関大バトミントンサークルみなさま</div> <div>神戸の</div> <div>新木君　池田君　加藤君　川上君</div> <div>多田君　水瀬君　村川君　弓場君</div> <div>小原さん　須見さん　山本さん</div> <div>迫田さん　小松さん　水谷さん</div> <div>高原さん　大谷さん　森さん</div> <div>バトミントンサークルの</div> <div>吉井さん　ツヨシさん</div> <div>東地里美さん　藤村俊介さん</div> <div>お祭りでもあつめました。</div> <div>奈良燈火会　下鴨神社古本祭</div>
<div>奈良の</div> <div>菊田さん　小林さん　横田さん　源勝さん　野崎さん　太田のぞみちゃん</div> <div>佐々木えみちゃん　田中さきちゃん　川田ひとみちゃん　籠野みさちゃん</div> <div>井上まあやちゃん　宮田たかしさん　ざこうゆうだいくん</div> <div>速水なりえちゃん　木下楓ちゃん　萩原ともみちゃん　上田りかちゃん</div> <div>塚田ゆうさくくん　大前勝正さん　びーもさん　寺崎千菜美さん</div> <div>木戸口美幸さん　沼田汐里さん　高山健介さん　田中寛人さん</div> <div>美作天地さん　中島さん　圓谷まみさん　山本まおさん　吹田の西村さん</div> <div>宮川さなちゃん　今西ゆうすけさん　秋宗快樹さん　おりざさん</div> <div>まるにさん　ほたかさん</div>
<div>ケースデンキ</div> <div>YAMADA デンキ</div> <div>ビューティーサロンおかべ</div> <div>（有）ホームアライブ住田さん</div> <div>野江水神社さん</div> <div>大川鍼灸整骨院さん</div> <div>ダイワハウス森さん</div> <div>大幸建陶株式会社さん</div> <div>茨木市学習塾のみなさん</div> <div>奈良東向き商店街のみなさん</div> <div>北千里の不動産屋さん</div> <div>梅田の電気屋さん</div>

<div><b>成松で提供してくださった方々</b></div> <div>お店から</div> <div>人形の岸田さん</div> <div>松下電工</div> <div>三木屋刃物店</div> <div>マルイ金物店</div> <div>岩倉精肉店さん</div> <div>あつま屋さん</div> <div>タバコ屋さん</div> <div>氷上ライオンズクラブさん</div> <div>布屋自動車商会さん</div> <div>クリーニング屋さん</div> <div>三菱電気さん</div> <div>小南商店さん</div> <div>学校から</div> <div>氷上町立中央保育園</div> <div>丹波市立中央小学校</div> <div>丹波市立氷上中学校</div> <div>個人から</div> <div>田原さん　和久さん　中尾さん　湊さん</div> <div>竹下さん　炭野さん　赤星さん　谷操さん</div> <div>荻野範幸さん　植木さん　梅田さん</div> <div>地域のみなさんから</div> <div>新田、中央通り、北町、西町、上町、宮前、仲町、下町、東町、常楽新田のみなさん</div>
<div><b>関西大学関係の方々</b></div> <div>関西大学</div> <div>村上和弘さん（ATACOMのOB）</div> <div>だんだんテラス</div> <div>京都府男山団地のみなさま</div> <div>辻村修太郎さん</div> <div>関西大学佐治スタジオ</div> <div>出町慎さん　綾さん</div>

<div><b>【Project OSC「花に寄り添う1000のかざぐるま」「あみの森広場】</b></div> <div>開催期間：2014年10月1日～2015年10月15日（花に寄り添う1000のかざぐるま）</div> <div>開催期間：2015年2月2日～2015年2月15日（あみの森広場）</div> <div>建築環境デザイン研究室</div> <div>芦田康太郎　植地惇　川辺隼　草田将平　高璐　近藤拓也　関谷大志朗塗師木伸介　松浦知子</div> <div>門田晃明　因田恭崇　岡本悠志　奥川翔　河股智矩　高木翔平　塚原健司　福間航　牧角雄</div> <div>毛程遠　山本楓　銅田匠馬　池田奈緒　今井祥太　大田美奈子　岡本聖也　岡本侑香里</div> <div>奥野智士　尾上侑希　亀井智美　川西亮　阪下摩里子　中馬啓太　原田渚　堀内彩夏</div> <div>萬浪さゆり　八木沙音里　山中晃</div> <div>関西大学環境都市工学部建築学科</div> <div>石原葵　江種航　倉本義己　松原一樹　光田真菜</div> <div>蔡昴　松下航大</div> <div>武庫川女子大学</div> <div>伊藤萌　飯田あまね　大佐古佳穂　澤田初美　山野上明里</div> <div>鳥取環境大学</div> <div>尾上功哲　今堀敦司　板持知世　稲田めぐみ　田中彩菜　長尾亜紀</div> <div>永井美香　中村紗季　松尾翼　松田大空　吉永智大</div>	<div>大阪ターミナルビル株式会社</div> <div>企画部</div> <div>岡取締役企画部長　三宅課長</div> <div>施設部</div> <div>小島課長</div> <div>営業部</div> <div>山崎課長　伊藤俊司</div> <div>木下製網株式会社大阪営業所</div> <div>木村所長　友清営業部長</div> <div>フランス</div> <div>LEM 空間工房</div> <div>長町志穂代表　高岡真依子</div> <div>関仁美　植村優香</div> <div>関西大学幼稚園</div>
--	--

<div><b>【瓜破東住宅 学生住戸自主改修実験】</b></div> <div>改修期間：2014年8月14日～2014年10月7日</div> <div>オープン団地：2014年10月8日～2014年10月14日</div> <div>建築環境デザイン研究室</div> <div>植地惇　草田将平　関谷大志朗　塗師木伸介　奥川翔　岡本悠志　山本楓</div> <div>大田美奈子　中馬啓太</div> <div>関西大学環境都市工学部建築学科</div> <div>熊崎悠紀　竹谷龍馬　早川凌平　小寺沙季　松下航大　横山哲也</div>	<div>参加大学</div> <div>大阪工業大学</div> <div>関西大学</div> <div>京都工業繊維大学</div> <div>武庫川女子大学</div>	<div>協力企業</div> <div>(株)日建学院</div> <div>(株)大和建設</div> <div>(株)パレットハウスジャパン</div>
---	--	---

<div><b>【だんだんテラス（2014年度）・ダンチ de コンダテ in 男山団地】</b></div> <div>だんだんテラス開設日：2013年11月16日（以後365日オープンを目標に活動継続中）</div>		
<div>関西大学団地再編プロジェクト</div> <div>京都府</div> <div>八幡市</div> <div>独立行政法人都市再生機構</div> <div>関西大学佐治スタジオ</div> <div>男山中央センター商店会</div> <div>A地区自治会（男山団地）</div> <div>B地区自治会（男山団地）</div> <div>八望連合自治会（男山団地）</div> <div>さくら三参福祉委員会</div> <div>タイムズ 24</div> <div>八幡の歴史を探究する会</div> <div>八幡地域猫を考える会</div> <div>NPO 法人八幡たけくらぶ</div> <div>ひよこサークル</div> <div>おひさまテラス</div> <div>指月子育て支援センター あいあいポケット</div>	<div>トップテンハウス</div> <div>出町慎（関西大学佐治スタジオ）</div> <div>辻村修太郎（男山地域コーディネーター</div> <div>/ 京都府公共員）</div> <div>白須寛規（design SU 代表）</div> <div>賀來寿史（家具町 LAB.）</div> <div>松田裕一（フリーディレクター）</div> <div>momiji（デザイナー）</div> <div>だんだんテラス利用者のみなさま</div>	<div>安原秀（OLA の会）</div> <div>三谷幸司（三谷都市建築設計室）</div> <div>菊田純一（菊田建築計画研究所）</div> <div>荒木公樹（空間計画（株））</div> <div>参加者常駐運営メンバー</div> <div>建築環境デザイン研究室</div> <div>芦田康太郎　植地惇　川辺隼　草田将平　高璐</div> <div>近藤拓也　関谷大志朗　塗師木伸介　松浦知子</div> <div>門田晃明　因田恭崇　岡本悠志　奥川翔</div> <div>河股智矩　高木翔平　塚原健司　福間航</div> <div>牧角雄　毛程遠　山本楓</div> <div>関西大学環境都市工学部建築学科</div> <div>阪井勇樹　松下航大</div>

そして、ここに書ききれない見守ってくださったたくさんの方々